

【別紙 4】

富里市公立学校情報機器整備事業計画

富里市教育委員会

4 1人1台端末の利活用に係る計画

(1) 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

「GIGA スクール構想」は、日本の教育現場において、生徒 1 人 1 台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することを目指している。この構想は、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを実現することを目指し、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に資質・能力を一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現することである。

本市においても、教師と児童生徒の力を最大限に引き出すことができるように教育実践と最先端のベストミックスを目指している。教師が大型提示装置を用いて説明し、子供たちの興味関心を高めることから始まり、授業中でも一人一人の反応を把握でき、双方向型の一斉授業の展開ができること、児童生徒同士で双方向の意見交換が可能で、意見にも即時に触れられる環境を整えてきたい。

この構想により、調べ学習や情報モラル教育、遠隔教育、協働学習など、多様な学びの場面で効果的に活用できるようにしていく。

(2) GIGA 第 1 期の総括

1 人 1 台端末導入以前も、P C 室のパソコンをカメラ付きのタブレット型のものにするなど授業において活用の幅が広がるように力を入れてきた。令和 5 年度より本格導入した校務支援システムも導入時には質問等が多かったが、現在は各校における使用状況は安定してきて、総体的には勤務時間の縮減に貢献している。一人一台端末の導入で活用が一気に進むと思われたが、一部の学校や教職員での活用は進んではいるが、市全体としての活用が思ったより進まず、一斉授業から抜け出せていない。年度末に実施した活用状況のアンケートから、授業における一人一台端末の活用状況については、「週 3 回以上授業等において端末を活用している」と回答した教職員の割合は約 60%であった。この結果から、多くの教職員が ICT を授業の一部として取り入れていることがわかる。一方で、さらなる活用の可能性も見込まれることから、ICT の基本的な活用方法から実践的な指導法までを含む研修を引き続き充実させ、より効果的な授業づくりを支援していく必要がある。

また、「どういった場面で活用することが可能なのか」「学習内容に沿った I C T の活用方法について」の情報を周知し、活用の促進に繋げていく。

GIGA 第 2 期の導入にあたって、情報活用能力の育成を前面に出した授業改善を小中学校に指導していく。市内で活用の進んでいる学校の情報を市内学校で共有できる体制を整え、各校における活用促進を図る。

(3) 1人1台端末の利活用方策

本市における 1 人 1 台端末の利活用の方針については、「個別学習の促進」、「協働学習の推進」を中心に進めていく。「個別学習の促進」については、1 人 1 台端末を活用した個別最適な学習が実践できるように、予算範囲内で個々の学習者のニーズや学習スタイルに応じたカスタマイズされた教材や指導が提供できる環境を整えていく。

「協働学習の推進」については、学習者同士や教師と学習者の間でリアルタイムでのコラボレーションが可能となるこの学習形態をより発展させ、本市で実践しているジョイントスクール事業の中で小中学校における授業交流を積極的に行えるようにしていく。

これらの方策を通じて、1 人 1 台端末の導入は教育の質を向上させ、児童・生徒一人ひとりの学習をより効果的かつ効率的にサポートすることを目指す。

(4)「教育DXに係る当面のKPI」に示しているKPIにもとづく現状と目標

項目	KPI	現状値（年度）	目標値（年度）
1人1台端末の整備	指導者用端末整備済みの率	100%（R5）	－
	1人1台端末を常時活用ができるよう、十分な予備機を整備しているか。	11%（R5）	14%（R8）
ネットワークの改善	無線LAN又は移动通信システムによりインターネット接続を行う普及教室の率	100%（R6）	－
	端末利用に係る回線の速度を計測・把握した学校の率	100%（R6）	－
	課題のある学校についてアセスメントを実施済みの自治体の率	100%（R6）	－
	必要なネットワーク速度を確保済みの学校の率	50%（R6）	100%（R8）
校務のデジタル化	FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校の率	0%（R6）	100%（R10）
	校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校の率	今後把握	100%（R8）
	クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校の率	今後把握	100%（R8）
	次世代の校務システムの導入に向けた検討を行う自治体の率	今後把握	100%（R8）
1人1台端末の積極的活用	毎年度ICT研修を受講する教員の率	85%（R6）	100%（R8）
	情報通信技術支援員（ICT支援員）の配置	3. 3校/人	4校/人（R10）
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	今後把握	100%（R8）
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	今後把握	100%（R7）
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	今後把握	小：80%（R8） 中：80%（R8）
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	今後把握	小：80%（R8） 中：80%（R8）
	教職員と児童生徒がやりとり	今後把握	小：80%（R8）

	する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率		中: 80% (R8)
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	今後把握	小: 80% (R8) 中: 80% (R8)
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	今後把握	小: 80% (R8) 中: 80% (R8)
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	100% (R6)	-
	希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	今後把握	100% (R8)
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	100% (R6)	-
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	今後把握	100% (R8)